

6 お雇い外国人（3）軍事顧問・アルベール＝シャルル・デュ＝ブスケ

19世紀後半に開国して近代化を急ぐ江戸幕府は、軍隊を創設しました。幕府の役人がイギリスとフランスを訪問して幕府陸軍に対する軍事訓練を依頼し、ナポレオン三世が日本に軍事顧問団を派遣することを承諾しました。1867年にアルベール＝シャルル・デュ＝ブスケ（1837-1882）を含む第一次軍事顧問団の一行計15名（後に4名追加）が、横浜に到着しました。



Albert Charles DU BOUSQUET
(写真：林邦宏)

軍事顧問団は、幕府のエリート部隊に対して軍事訓練を行いました。ただし、エリート部隊とは言っても、武士だけでなく荷物の運搬人や火消（消防士）など様々な職業の人から成る混成部隊でした。訓練は成果を上げたものの、江戸幕府の時代は終わり、1868年に誕生した明治政府によって軍事顧問団は解散を命じられました。中には帰国せずに、戊辰戦争の最後の戦いであった箱館戦争で、旧幕府軍を支援した者もいました。デュ・ブスケは、箱館戦争には参加しませんでした。旧幕府軍に政治や軍事に関する情報を提供しました。

軍事顧問団の解散後、デュ・ブスケはフランス公使館の通訳官となり、1870年にお雇い外国人として、兵部省（現在の防衛省に該当）の軍事顧問に採用されました。富岡製糸場の建設の技術指導者として、明治政府にポール・ブリュナを推薦しました。デュ・ブスケは、苗字の DU BOUSQUET を日本語の発音にして「治部輔（Jibusuke）」と名乗っていたことから、デュ・ブスケがデザインした軍服は「ジブスケ袴」と呼ばれました。

デュ・ブスケは日本人女性と結婚し、明治政府との契約終了後もフランスの領事として働き、日本で生涯を終えました。名字の DU BOUSQUET がフランス語で小さな林を意味する「Bosquet」の発音が似ていることから、彼の息子が帰化したときに苗字を「林」としました。

現在、横浜港を見下ろす高台には、港の見える丘公園があります。この公園の北側の小高い丘は、「フランス山」と呼ばれています。そこには、かつてフランス軍事顧問団が駐屯し、その後はフランス領事館が置かれていました。

掲載日：2021年6月15日